

## ===2021 年 HG 競技委員会議事録===

日時：2021年7月13日（火）21:00-23:00

場所：オンライン開催（Zoom）

参加者：牟田園（委員長、司会進行）、板垣、鈴木由路、田中、鈴木あきこ（議事録）、大沢（理事）

### ===【議題】===

#### ○ 緊急事態宣言下での HS 開催の是非

##### 【意見交換】

- ・ 状況によっては HS 大会を開催できるのではないかと。開催地が緊急事態宣言の対象でない場合や、主催者がエリア周辺の状況を鑑みて開催を希望している場合等。
- ・ オリンピックはじめ、プロ野球やJリーグなども開催されている。
- ・ 茨城県連は、プロスポーツ等を参考にコロナ対策ガイドラインを作成し、JHF に提出済。茨城県で開催する大会は、このガイドラインに則って行う。
- ・ カテゴリー2の大会はJAA マター。日本選手権もJAA マター。開催の可否は最終的にJAAの承認が必要。
- ・ 新しいJAA スポーツ室長に直接相談することはできないか。JAAとJHFの意見交換会は次にいつ開催されるのか。
- ・ リモートが多く、直接相談することは難しい。また、JAAと相談するならば、JHF 会長に依頼するのが筋。競技委員会から理事会を通して、会長行ってください、という流れ。意見交換会は9月ぐらいの見込み。
- ・ 現在シビルポイントは凍結されている。現在持っているポイントは減って行かない。大会でポイントを取れば加算はされる。  
大会を開催しやすくするために、シビルポイントが凍結されている間は、HS シリーズはカテゴリー2 必須でなくすのも一案。
- ・ カテゴリー2 必須はルールに書いてあるため、年度の切り替えに合わせて2022年度から時限立法的に運用した方がよい。

##### 【今後の対応】

- ・ 競技委員会としては、HS シリーズ大会について緊急事態宣言が出ている場合でも一律で中止を求めないことを確認。
- ・ 茨城県連のコロナ対策ガイドラインをブラッシュアップし、HS のガイドラインとする。→（後日追記）JHF が HG、PG、MPG の競技とイベント共通のガイドラインを作成することとなった。
- ・ HS 大会のカテゴリー2 必須の扱いについては次回検討する。

#### ○ Summer meeting 足尾について

##### 【状況】

- ・ 緊急事態宣言が発令されたので、開催要項どおりだと中止だが、主催者から大会を開催したいとの要望があった。
- ・ 茨城県連は、コロナウイルス対策ガイドラインを作成し、JHF に提出した。このガイドラインを遵守して大会を開催したい、とのこと。

- ・ エリア周辺住民の理解も得られている。
- ・ 茨城県の HP を見ると、不要不急の往来自粛をしてくれ、という記述はある。

【今後の対応】

- ・ 主催者から開催要項の差し替えが提出され次第、競技委員会で確認し、JHF、JAA へ上げる。

○ 世界選手権選考期間の見直し（2023 年マケドニア世界選手権）

【提案】

- ・ [2020 年の得点×0.5+2021 年の得点×1 の合計] で選考することとなっているが、2021 年は新型コロナウイルスの影響でこれまでの大会はすべて中止された。

採用本数がほとんどないままに選抜行うことになってしまうため、2022 年の大会結果を含めて選抜を行うことを提言する。

[2020 年の得点×0.5+2021 年の得点×0.5+2022 年の得点×1 の合計] としたい。

【意見交換】

- ・ 2023 年の世界選手権代表を 2020 年 1 年間の結果で選出することになるのは良くない。2023 年時点で実力が反映されない。脂がのった人を選ぶ、という理念はどうなるのか。
- ・ 年度途中で選考のルールを変えるべきでない。
- ・ 2021 年の大会がコロナの影響で 1 大会も開催されなかった場合は、[2020 年の得点×0.5+2022 年の得点×1 の合計] で 2023 年世界選手権の選考を行う、ということをお早めにアナウンスしておく、というのはいかがか。
- ・ その場合、2022 年のポイントはプレワールドの前の大会までにし、[2020 年の得点×0.5+2022 年の 6 月までに行われた大会の得点×1 の合計] としたい。世界選手権の代表を 2 年前と 3 年前の得点で決める、とした時も、プレワールドの際には代表が決まっているようにしたい、ということが理由のひとつだった。

【議決】

- ・ 提案は否決された。

○ 世界選手権選考期間の見直し（2025 年以降の世界選手権）

【提案】

- ・ 選考基準を改定し、

[前々年度の得点×0.5と前年度の得点×1 の合計]

(ただし、前年度の得点は世界選手権の 6 か月前までの大会の得点とする。)

と再度変更する。

<なぜ前々年度の大会成績で世界選手権選抜を行うことになったか>

- ・ 世界選手権が 1 月、2 月に行われる場合（オーストラリアなど）、代表選手が準備する時間がない。クリスマスに大会をやろうという動きがあったことも。
- ・ 早く代表選手を決めることで、チームフライトの練習を行うなど日本チームとしての質を向上しようという意図があった。  
2015 年のメキシコの世界選手権で、イタリアチームが非常に高いレベルのチームフライトしていることを受けて、日本もチームとして協力して飛ぶべきだとの意識が強くなった。

<現在の選考期間になっての感想>

- ・ 早くに代表メンバーが決まっても、離れた位置に住んでいる同士で練習フライトをするような機会はなかった。
- ・ 会社員の代表選手は、1年後の状況がどうなるかわからないために、会社へ申告しても「あ、そうなんだ、また近くなって本当に行くなら言ってください」というような状況。
- ・ 前年度まで選考を行って、一番調子のいい選手が行くべきではないか。

【今後の対応】

- ・ 次回の競技委員会で再度提案の説明をしてもらい、意見交換をする。